

【令和7年度 学校関係者評価委員】

委員	氏名	所属	役職
委員長	鎌田 佳奈美	摂南大学看護学部	学部長
委員	木下 昌美	特別養護老人ホーム ファヴォーレ	法人本部長
委員	前島 良弘	啓学館（看護教育研究家）	
委員	西尾 和人	近畿大学医学部	学部長
委員	青木 真理	近畿大学病院	病院看護部長
委員	今村 美生	近畿大学附属看護専門学校同窓会 礎	会長

2025年度 近畿大学附属看護専門学校
学校評価

1.評価の概要と今後の課題

基準1. 教育理念・目的・育人人材像
<p>【評価の概要】</p> <p>2025年度は教育目標に対する科目目標・単元目標と目標に紐づく評価の実施に向けて取り組んだ。（評価方法と評価の観点の提示）約半数の教員が教育目標と科目目標のつながり、目標達成の評価方法の提示を課題としていたが、全教員が提示できていない現状があった。原因としては1回の伝達に留まらず、何度となく必要性の説明・促しが必要と考える。また、学生の活用度についての評価ができていない。わかりやすい提示と活用に向けて活用度の評価は必要と考える。</p> <p>外部施設、保護者には当校の教育理念・目的・目標を臨床実習指導者会議や保護者説明会で説明。特に質問などはなく、ご理解いただいているという認識である。</p>
<p>【今後の課題】</p> <p>・「科目の評価と評価の観点の提示」を実施し、達成度を意識して教員・学生が講義や実習に取り組む。→教育理念・目的・目標の浸透につなげる</p>
基準2. 学校運営
<p>【評価の概要】</p> <p>運営方針（アクションプラン）に基づき、各業務担当の年間目標・計画を立案し、実施している。病院移転・募集停止に伴う修業年限の制約から、業務方法や学生規程の見直しを実施。ただ決定に至るまでには時間を要した。情報システム化に伴う業務効率化はシステムを扱う教員が慣れてきたことにより改善できた部分もあるが、実習指導に伴う出張が増えたことにより、情報共有手段が電子掲示板や学内SNSツールが主体となったため、入力作業に時間を要するといったデメリットも見えてきた。</p> <p>2025年度より業務時間延長に対して振替ができるシステムを導入。利用する教員とほとんど利用しない教員とで差が出ている。ほとんどの教員が1時間以上の業務延長をしている現状があるため、延長した時間を有効に使うよう周知していく必要がある。</p>
<p>【今後の課題】</p> <p>・業務に合わせた勤務形態の運用を実施することで、リフレッシュや働き方改革につなげていく。</p> <p>・2025年度に見直した業務や学生規程の運用状況と課題の抽出。</p>

<p>基準3. 教育活動</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>2025年度は教育方法について、教員間での授業評価を実施し見直すことを目標として実践した。教員間授業評価を実施することで、自己の授業に対する課題や他者の授業方法から学びを得ることができ、有意義な取り組みになったとの感想が得られた一方、授業評価実施にむけての周知が遅れたことにより、すでに授業が終わっている教員がいたり、授業評価希望日の入力を入れておらず、受けることができなかった教員もいたという現状があった。</p> <p>FD研修については、オンデマンド研修が主体となったことで、個々が多くの研修を受けることができた半面、学習内容の共有ができなかったことが反省である。</p> <p>外部意見の反映については、卒業生や臨床からの声を具体的に抽出することができておらず、今後の課題としていく。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の自己評価達成度を上げていく。 ・教員間での授業研究を積極的に進めていく。
<p>基準4. 学修成果</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>2025年度就職率は100%、2年次3月～3年次8月までの期間で全員が決定できた。ただ、第1希望での就職ができなかった学生が20名程度おり（第1希望の近大病院の就職試験合格率が低下したことが理由の大半）、前年度までと比較すると年々低下傾向（96%→89%→72%）にある。これは学生の問題ではなく、近畿大学病院の募集人員減少に伴うもので、今後は学生の特性や希望にあった就職先を考えるようなキャリア指導が必要であると考ええる。</p> <p>国家試験の合格率については、毎年全国平均を超える合格率となっており、令和7年度卒業生についても維持できている。ただし、本来であれば100%を目指すものであり、不合格となった学生の支援方法の評価を行い、今後に向けての課題を抽出していく。また個別指導とは別に学校全体としての国家試験対策を計画し、それに基づいた実施と見直しを行い、教員全員で取り組む意識を持って実行していく。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国家試験対策については、3年間を見据えた計画立案と実施 ・成績不良者（国試模試）に対する個別対応方法の立案と実施 ・就職試験にむけてのキャリア指導

<p>基準5. 学生支援</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>就職に対する支援は1年次から就職専門業者の協力を得て実施。自己分析の方法や就職先選択方法、エントリーシートの書き方、面接対策などを説明。「看護マネジメント論」の授業展開としてキャリアマネジメントを入れ、実際に働いている専門・認定看護師に役割などを話してもらっている。</p> <p>休学・退学率は増減なく2～5%未満を推移しており、その理由のほとんどが「進路の迷い」であり、個人的な理由によるものが多いと言える。ただ、学習についていわずに「迷っている」ということもあるので、学習支援は必要であると考えます。</p> <p>合理的配慮の義務化に対する対応について、学生個々の状況を学内教員で共有し、対応方法については、必要時には実習先にも共有している。会議では、対応を協議することや本人、保護者への説明する仕組みを検討するとよいとアドバイスを受けた。このことから合理的配慮が必要な学生への対応については検討していく。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習困難学生への対応体制の整備、留年生、科目留年生の減少を目指す。（継続課題）
<p>基準6. 教育環境</p>
<p>【評価の概要】</p> <p>昨年度の課題であった災害時の備蓄については、助成金により個人用災害セットや飲料水などが準備できた。学内の防犯についても、病院移転後、看護学校教職員管理で入退館ができるシステムを構築。ALSOKの監視下で夜間対応している。</p> <p>教育教材については、不足なく適宜準備をし、学内演習や自己練習に対応できている。図書室や事務室については、利用実績と学生へのアンケート調査に基づき、開館時間や曜日を設定し、令和8年度の運用を決定した。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IT環境を利用した教育方法の充実（継続） ・臨地実習期間の学習環境の充実（OMC利用や学校利用の充実を図る）

<p>基準7. 学生の募集と受入れ</p> <p>【評価の概要】</p> <p>2025年度学生募集に関しては、最後の募集となることから受験者減少を予測し、高校訪問数を早期（4～5月）から始め、指定校枠を増やす、オープンキャンパスの実施を早める、新たに面接対策に特化したOCなど、かなり内容を変更して実施した。その結果、受験者数の増加、入学定員充足率100%を超える結果となった。今後は在校生の学習状況など、保護者や学生が安心できる魅力の発信に切り替える。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当校（専門学校）の魅力発信（HPやInstagram等）
<p>基準8. 財務</p> <p>【評価の概要】</p> <p>財務基盤を安定させるために中長期計画を策定している。</p> <p>学園の経理規程に則り適切に予算執行のうえ、財務帳票を作成し、ホームページに財務情報を公開している。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生数減少に伴い、経費削減を実施し、必要な財源の確保にむけて取り組む。

<p>基準9. 法令等の遵守</p> <p>【評価の概要】</p> <p>看護師養成所運営ガイドラインに則り、教員数の確保、環境整備を努めており、学校の教育・運営に関する情報は教育要項ならびにホームページに公開されている。権利擁護は近畿大学ハラスメント防止ガイドラインに基づき、学生への周知ならびに対応が図られている。今年度より、ハラスメント調査を定期的実施。学生から早期に情報収集し、できるだけ早い対応をしていった。またハラスメントの内部規程を作成。問題が発生した場合には、規程に基づいた対応ができるよう整備した。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント対応規程による運用 ・ハラスメントや個人情報保護に関する啓発活動の強化（継続課題）
<p>基準10. 社会貢献・地域貢献</p> <p>【評価の概要】</p> <p>オープンキャンパスと同時開催で、地域交流会を実施。近隣の幼・小学生を対象にイベントを開催した。また、大阪狭山市内の小学校から要請があり、学校見学の受け入れや小学校へ出向いて職業に関する説明会を実施。子どもの将来像を描く一助となった。</p> <p>社会貢献としては、環太平洋大学の「看護教員養成コース」の受け入れを行った。一人でも多くの看護教員を養成し、看護教育の充実が図れる支援ができればと考える。また、大阪府看護協会が実施している実習指導者講習会の講師も行うなどしている。学生のボランティアとしては、実習先の老健施設の夏祭りなどの手伝いに参加している。</p>
<p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体的なボランティア活動に向けての制度検討（表彰制度、ポートフォリオでの可視化など）。 ・地域連携に関する検討

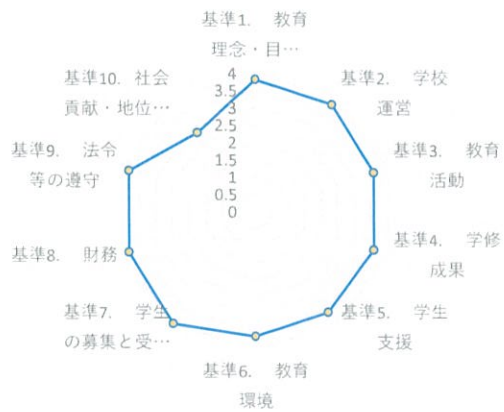
2. 評価結果

評価は次のとおり 数値化した。

適切：4 大体適切：3 やや不適切：2 不適切：1

項目	学校評価平均値	自己評価平均値
基準1. 教育理念・目的・育人材像	3.8	3.2
基準2. 学校運営	3.8	3.2
基準3. 教育活動	3.6	3
基準4. 学修成果	3.6	3.1
基準5. 学生支援	3.6	3
基準6. 教育環境	3.6	2.9
基準7. 学生の募集と受入れ	4	3.7
基準8. 財務	3.8	3.8
基準9. 法令等の遵守	3.8	3.7
基準10. 社会貢献・地位貢献	2.8	1.4

学校評価



自己評価

